



護法

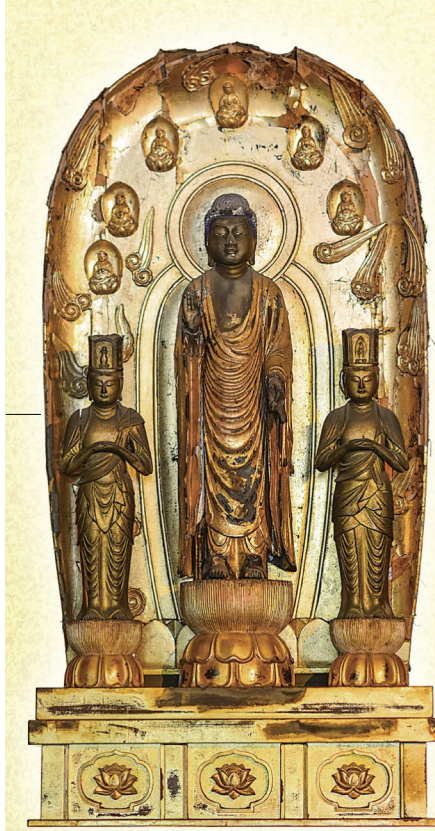
第47号

発行
福井県真宗高田派護法団
福井市花堂南2-10-35
真宗高田派福井別院内

一光三尊佛県内各寺院で出開帳成る。

三尊様は、本寺へ御帰山される
平成二十八年三月までの二年間、
一般寺院へお出向になり、御同
行の前で御開帳され、そのお姿

出開帳報告



- 福井別院 平成二十七年三月十五日
- 本流院 平成二十七年五月三十日～三十日
- 仙福寺 平成二十七年六月五日～七日
- 専福寺 平成二十七年九月十二日～十三日

本流院

坂井市三国町
加戸五六一三二

一組 本流院住職 秦 顕乗
五月三十日 十一時

お練り、先頭住職、副住職に続き、まとい、楽人、本山、三尊さんを担いだ水干、ゆつくりではあるが



三味線演奏と花魁道中
東尋坊
切り絵動画「東尋坊」

るがおごそかに赤い毛氈の上を進む。三尊さんが意外に重いのか水干の人達の顔から必死の様子が伺える。沿道では三尊さんのお通りに合掌して頭を下げる人、喜びの涙を浮かべる人、いろいろな思いが人々の心に宿る。

十二時四十五分

御開扉、一光三尊佛の三十二年ぶりの現出である。本山維那東院様の調声による阿弥陀経の開題で御開扉の幕は開いた。住職法鼓挨拶の後一回目の通り参拝、拝観を待ちわびた人の長い列が続いた。



十四時十五分

「東尋坊」上映、東尋坊の物語は一光三尊佛の記念に二年の歳月をかけた制作したものです。かたりを民謡の恩地美佳先生、切り絵は住職が担当しました。

十四時三十分

津軽三味線の演奏に続きおいらん道中、おいらん道中の曲は恩地美佳先生がこの日のために作ったもので、住職、坊守共練習が大変でした。

十四時五十分

恩地美佳さん遊法師コンサートすばらしい歌声を披露していただきました。
五月三十一日 十時
御開扉法会 表白では、住職になつて三十七年間の歩みを述べさせていただいた。阿弥陀経開題の



境内狭しと出番を待つ稚児

あと法会最大の山場、行道の始まりである。本堂の前にはたくさん稚児が今かいまかと待機している。行道に入るとお参りの人の目が一斉に稚児の方に移る。説教一席、住職の大学の時の先輩で法話、影絵等いろいろな事を教えていただき、人生の師匠でもあります岡山の正親隆哲師。尊きお説教を賜りありがとうございます。

十三時十五分

御閉扉、御帰山、住職を先頭にお練りが続く、もろだくさんの内容の二日間、天気にも恵まれ一光三尊佛の幕は閉じた。たくさんの方のお力添えのおかげでこの大行事を厳修する事ができました。誠にありがとうございました。ごうございました。



御帰山行道

仙福寺

福井市足羽
一―一五―三二

二組 仙福寺住職 佐々木 真修
当山では、平成二十七年六月五日～八日に十七年ぶりに三尊様をお迎えいたしました。

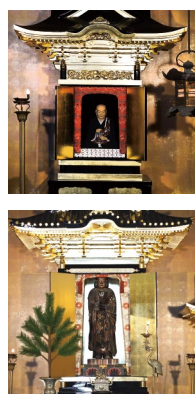


御立ち寄り 興行列



御立ち寄り 同行宅での参拝

五日夕刻のご到着時は、小雨模様で御開扉中の天候が心配でしたが、翌六日には天候は回復し、興行列にて同行宅四戸にお立寄りする中、多くの方に参拝いただきました。
七日は、慶讃法会を挟む形で、庭儀式(稚児行列)、一光三尊佛絵伝の絵説き、高田派鑑学栗原廣海師による記念講演、内陣通り参



御開扉記念で修復になった各御厨子
親鸞上人厨子・三具足・輪燈・卓
真孝上人厨子・像
聖徳太子厨子

拝等を企画し、より親しみをもつて三尊様のご法縁を喜んでいただきました。

記念講演高田派鑑学
栗原廣海師
一光三尊佛
絵伝絵説き



▲庭儀式(稚児行道)



三尊様は八日早朝に、次の出開帳先である東本願寺派ご本山に御出立されました。わずか四日間のお迎えでござい

新しき時代へ 法灯をつなぐ

真宗高田派本山専修寺

伝燈奉告法会

団体参詣のご案内

ご同行の皆さまには、ますます清祥のこととお喜び申し上げます。新しき時代への新法主殿伝燈奉告法会に当福井県真宗高田派護法団では、各寺院ご同行の皆さまとともに、この有難いご縁に逢うべく団体参詣会を実施することになりました。つきましては、ご同行の皆さま方には、お誘い合わせのうえ多数ご参加下さいますよう、下記のとおりご案内いたします。



通り参拝(内陣参拝)

ましたが、三尊様のお姿を拝して、改めて開山聖人をはじめとする先達方との尊いご縁を実感し、そして何よりこの私を喚んでくださっておる如来様の力強いお声にただただ感謝するばかりでございました。



有志の方は、参加申込書に参加費を添え、所属寺院を通じて、護法団までお申し込み下さい。まずは、ご案内まで
福井県真宗高田派護法団
団長 松木光仁

記

- 事業名 第二十五世伝燈奉告法会参拝
- 主催 福井県真宗高田派護法団
- 実施日 平成二十八年三月二十六日(土曜日・白旗)
- 旅 程 県内各地午前七時頃出発(午後一時より午後法会参詣) 県内各地午後七時頃帰着(大型観光バスにて県内各地より送迎)
- 参加費 一六、〇〇〇円(お一人様)
- (昼食・夕食代・本山参詣懇話会・旅行代 書保料料含む・添乗員・看護師同行)
- 募集人員 二〇〇名
- 募集締切 平成二十七年十二月末日(定員になり次第募集切らせて頂きます。)
- 募集方法 参加申込書に参加費を添え、所属寺院宛お申込みください。

真宗高田派福井別院輪就任挨拶

別院の新たな寺院経営をめざし、次世代へ引き継ぐための更なる努力を。

福井別院輪番

西光寺住職 田仲 嚴紀

初秋の候 檀信徒の皆様、末寺ご住職の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、図らずも真宗高田派専修寺福井別院輪番を拝命し、その重責を担うことになりました。

もともとより浅学非才の身、微力ではございますが、副輪番にご就任いただき

ました圓光寺様と共に、与えられた職務に邁進する所存でございます。何卒、前輪番同様、格段のご指導、ご支援をお願い申し上げます。



さて、別院の護持、事業運営につきましても、近年の新たな収入をみますと、先般の



このような状況の中で、私達の世代で新たな収入の確保をめざし、更なる健全な経理の状態で、つぎの世代へ引き渡せたら、と考える次第です。檀信徒の皆様、末寺ご住職の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。合掌



納骨堂一浄法雨堂

別院改革活性化の諸施策により、護持費の増収、納骨堂建立に伴う納骨料の収入、納骨壇、位牌壇の販売及び、院号発布による冥加金の収入等、一定の成果をあげ改善しているところではあります。

一方、今後増大しそうな支出として修繕費があります。別院の本堂、庫裏等建物の老朽化は一段と進み、その費用は年々増加の傾向をたどると思われます。

特集 シリウス福井の寺々 Ⅳ

越前高田派 寺院探訪

第四回 法性山常楽寺

親鸞聖人御旧蹟の寺。



三国町加戸の常楽寺の山門前に親鸞聖人御旧蹟と書かれた石碑が建っています。これは、聖人承久二年(一二〇七年)三月頃、専修念仏の教えのおとがめにより越後の国の国府(現在の上越市直江津)へお下りになられた時、風のたよりに

立ち寄りになられ一夜の宿をおとりになられたという。住職はその御教えに感涙しお弟子となり京都へお伴をし長い間お給事申し上げ、帰郷の際は聖人の形見として、ご自作のご尊像を授かったと伝えられている。そのご尊像は



常楽寺御堂外観

聞いた当時の住職真傾上人は一目お会いしたいと芦原の二面のところでお待ち申し上げ「どうか、尊いお念仏のご教化にあずかりたい、一切衆生のために」と合掌しましたが、厳しい警護の中、聖人は「真傾よ、又あう日もありませんよ」と申され、涙を抑えて別れられその後、関東より京都へ帰洛の途中常楽寺へお



聖人真筆の六字名号

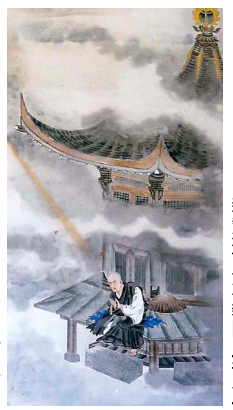


聖人御自作の御尊像

ご坐高三九、五センチメートル、ご坐巾三二センチメートル、聖人晩年のお姿で、ご尊顔には厳しさが無く、柔和さがよく伺える。現在お厨子内にご安置申し上げ拝願されているお姿がそれでありませ



親鸞聖人涅槃図(部分)



六角堂夢告図

その他、宝物としては、「ご真筆の六文字のご名号」(五幅)及び、大変珍しいと言われる「親鸞聖人涅槃図」又、京都の頂法寺の「六角堂夢告図」等、十数点保存されている。

それ以来、常楽寺は真宗高田派の由緒ある一寺院として、法灯ここに新たまり現在に至っております。

法性山常楽寺住職 伊藤 泰臣



〒913-0002 福井県坂井市三国町加戸 93-6 電話：0776-82-0093

Advertisement for Kajiso (かじそ) featuring a cartoon character and contact information: 0120-54-1932, http://www.kajiso.co.jp/

Advertisement for Kodaiya (小大玉舎) featuring a candle illustration and contact information: 0120-22-0986, 福井市順化2-15-9

Advertisement for Kitayama (北山法衣仏具株式会社) featuring a list of services and contact information: 0120-52-1844, http://www.kitayama.cc

敗戦七〇年を迎えて

一組 顕正寺住職 有馬 宏明

なんだかキナ臭い時代を迎えて
いるような気がする。昨年十二月に施行された特定秘密保護法に引き続き、この九月にも国会を通り過しそうな一〇本の安全保障関連法案。もちろん現行の憲法が絶対に正しいなんて事は思わないが、正面から憲法改正という手法をとらず、解釈によって憲法そのものの意味を変えること自体が、まさにその路線を推し進めるグループ

なく、むしろ為政者の恣意を防ぐものだ。そこには安易な数の論理による民主主義の限界も示されている。とすれば解釈によって憲法の本質的意味を変える手法は立憲民主主義そのものの否定、もつとやうと国民主権の否定ということになるのではないか。坊主が政治のことを語る事はおかしいというかもしれない。が本当にそれでいいのだろうか。御本山の平成二十一年「現代と仏法を考える集い」特別講演で北島義信師は、「念仏者として正定聚の位

に入るためには、社会への関わりを持ち、社会の真実の声に耳を傾ける必要がある場合、の絶対化を糺す必要がある場合、社会的発言や行動は避けて通れない。念仏者は『殺してはならぬ。殺させしめてはならぬ。』というお釈迦様の言葉を自己の問題として、社会政治的背景の中で受け止める必要がある。とりわけ殺させしめてはならぬ。ということは、行動を意味する。それは我々が殺すのではなく、人にもそれをさせない、阻止することを意味する。

生きることへの感謝

二組 勝林寺副住職 武田 純一



最近よく見ているテレビ番組にNHKの「ファミリーヒストリー」があります。名前の通り、有名人の家族の歴史を何代か前にさかのぼって調べ上げて本人に伝えるという番組なのですが、この中で人生の奇跡的な出来事を数多く見る事が出来ました。たとえば、ある芸能人の母親は先の戦争中に南洋諸島から引き揚げるとき、孫の手違いで乗船予定の船に乗れませんでした。ところがその船が魚雷攻撃で沈められてしまっています。もし、母親が予定通り乗船していたらその芸能人の方は生まれていなかったわけですね。また、ある音楽家の祖父はあの有名なタイタニック号に乗船して助かった、たつ

た一人の日本人でした。これらの例は極端なものですが、それ以外の場合でも大なり小なり奇跡的な出来事や運命的な出会いがありました。その結果、私がこの番組を見ていつも考えさせられることがあります。それは、いま私達人間がこの場に生きているのは、様々な奇跡的な出来事や様々な人との不思議な出会いやつながりのうえに成り立っているということなんです。奇跡的なこととか運命的なこと

とは、あることが難しい事、つまり「有り難い」事であり、私達が生きているという事は、実は「有り難い」事の積み重ねから成り立っているのではないのでしょうか。だからこそ私達は、常に命を大事に大切にものとして扱わなければなりませんし、他人の命を軽く扱うことも避けなければならぬと思います。そして、いま生きていることは自分らの力のみで生きているのではなく、自らの先祖やいま現在私達の周りにはいる人たちの出会いや関係によって生かされていることに気づき、常に生きている事や周りの人への感謝の気持ちを持つて生きていくことが大事なのではないでしょうか。

正しく理解できなかったことが、大きな原因でした。法話をする時も、同じだなと思いました。知識だけでは、人に話をするべきでないし、一人よがりの法話になつてしまふのではないかと思ひます。多くの布教使の法話を聞くことも大事だし、自分が心にしみて、感動した経験が何より大切であると思ひます。この事を今後に生かすように努力していきたいと思ひます。

昭和五十五年十月に本山宗務院から発行された「高田の寺々」という本によると、福井県一組 要願寺 幸円山 称光帝の応永二十一年(一四一四)、天台宗の学僧北田阿闍梨なる者、隠遁の志にひかれて台山を降り当所に来たり風光の明媚なるを愛で、ここに幽庵を結び伝々。つまり、二〇一四年はこの寺が創建されてちょうど六百年の節目の年を迎えたわけである。現住職の私は第二十五代なので、単純計算すると一代あたり二十四年間住職を努め、次第継承してきたこととなる。六百年間この地で寺院が継承されてきたというこの事実、また吉崎御坊に接するこの北潟と高田派寺院が現存しており、連如上人率いる本願寺勢力と豪族富樫氏と組んだ高田派勢力が相まみれる最前線基地であったことが窺い知れる。鹿苑寺金閣を建立したことで有名な室町幕府三代将軍、足利義満は一四〇八年に死去し、幕府の権力は次第に守護大名に移つてゆく。この時北田阿闍梨は

反省すべき事

二組 栄照寺住職 藤原 法寿

前回は、法話の事を書かせていただきましたが、今でも法話をする時は、緊張し、私の思いが伝わっているか、とても不安です。趣味としてゴルフをやっています。が、なかなか上達しません。何冊も購入し何本もくり返し読みますが、一向に進歩しません。また、いろいろな人に教えをこいしますが、やはり結果は同じです。ある人は私の頭を押さえてスウィングする

ように言われたり、また、ある人にはVの字のようにスウィングするようにと言われましたがほとんど理解できません。あるレッスンプロの指導書を読み、その方法をやってみて、ああこれだと今までの悩みが解消しました。ある程度、自分のイメ

ージするスウィングが出来るようになり、スコアもまとまってきました。この指導書のおかげで、いろんな指導書も、今まで教えてくれた人達も、同じ事を指導していることに気付きました。ただその時は、自分が理解できるレベルになかったのです。誤解していたり、

比叡山から学僧を受け入れ、援助協力し今日の要願寺を継承させてきた人々こそ、今日の当院門信徒の皆様である。北田改め性実上人彌来二世俊紹まで、六百年の長きに亘り、当院の維持に注力・協力を頂いている。北部丘陵地帯に位置する北潟村は北潟湖畔を中心に稲作はもろろんのこと、スイカやメロンの果物栽培も盛んで、今年も初物です。とていつて沢山の農家の門徒衆が、あたくも当たり前のようにお寺に農作物を届けてくれている。「弥陀の誓願不思議に助けられまいらせて往生をば遂ぐるなりと信じて念仏申さんと書いたつ心のおこるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。」の一事を胸に、親鸞聖人七百五十回大遠忌と当院開山六百年記念の法会を平成二十八年十月十六日に報恩講お付合の御法中、及び当院にゆかりのある門信徒の皆様のご協力をいただきながら、厳修させていただきます。予定である。

比叡山から学僧を受け入れ、援助協力し今日の要願寺を継承させてきた人々こそ、今日の当院門信徒の皆様である。北田改め性実上人彌来二世俊紹まで、六百年の長きに亘り、当院の維持に注力・協力を頂いている。北部丘陵地帯に位置する北潟村は北潟湖畔を中心に稲作はもろろんのこと、スイカやメロンの果物栽培も盛んで、今年も初物です。とていつて沢山の農家の門徒衆が、あたくも当たり前のようにお寺に農作物を届けてくれている。「弥陀の誓願不思議に助けられまいらせて往生をば遂ぐるなりと信じて念仏申さんと書いたつ心のおこるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。」の一事を胸に、親鸞聖人七百五十回大遠忌と当院開山六百年記念の法会を平成二十八年十月十六日に報恩講お付合の御法中、及び当院にゆかりのある門信徒の皆様のご協力をいただきながら、厳修させていただきます。予定である。

間違いなく比叡山にて修行していたはずである。絶大な権力で上皇の地位をも窺う足利義満の死は、その時代を生きた人々にとって一大事件であったことは想像に難くない。日本史の教科書を紐解くと、中世に農業が発達し、農民の暮らしが向上し、惣と呼ばれる自治の仕組みを整えた農村では、寄合を開き、祭路の管理など村掟を定めた自治が始まった時期にあたる。当時幕府は京都にあり、都に近い越前国の北潟村においては、比較的早い時期にこのような自治が始まったと考えられる。



だど今までの悩みが解消しました。ある程度、自分のイメ



正しく理解できなかったことが、大きな原因でした。法話をする時も、同じだなと思いました。知識だけでは、人に話をするべきでないし、一人よがりの法話になつてしまふのではないかと思ひます。多くの布教使の法話を聞くことも大事だし、自分が心にしみて、感動した経験が何より大切であると思ひます。この事を今後に生かすように努力していきたいと思ひます。



比叡山から学僧を受け入れ、援助協力し今日の要願寺を継承させてきた人々こそ、今日の当院門信徒の皆様である。北田改め性実上人彌来二世俊紹まで、六百年の長きに亘り、当院の維持に注力・協力を頂いている。北部丘陵地帯に位置する北潟村は北潟湖畔を中心に稲作はもろろんのこと、スイカやメロンの果物栽培も盛んで、今年も初物です。とていつて沢山の農家の門徒衆が、あたくも当たり前のようにお寺に農作物を届けてくれている。「弥陀の誓願不思議に助けられまいらせて往生をば遂ぐるなりと信じて念仏申さんと書いたつ心のおこるとき、すなわち撰取不捨の利益にあずけしめたまうなり。」の一事を胸に、親鸞聖人七百五十回大遠忌と当院開山六百年記念の法会を平成二十八年十月十六日に報恩講お付合の御法中、及び当院にゆかりのある門信徒の皆様のご協力をいただきながら、厳修させていただきます。予定である。



タイタニック号に乗った祖父



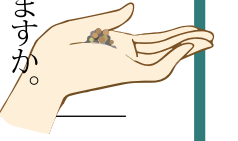
要願寺外観

手のひらのわずかな土

皆さんこんなお話を聞いた事がありますか。
お釈迦様は、弟子のアーナンダに足下の土をすくい上げ、この世の中に生きるものは、大地の土のようにたくさんいるけれど、人間に生まれるのは、手のひらの土ほどのわずかなものだよ。

さらに、手のひらの土を指の爪で救い、手のひらの土が人間ならば爪の上の土は、仏の教えを聞くことが出来るもので、喜ばねばならないとおっしゃいました。

私たちは人間として生まれること、仏の教えに遭うことは、なかなか難しく有難いことです。



人間に生まれたり、仏の教えを聞けたりすることは当たり前のごとく、貴重な出来事として受け止めたいたいです。

さて、私は、昨年五月より、当別院の事務局を任せられ、法務に従事いたしております。

当別院においては、四年前より、浄法雨堂(納骨・位牌堂)での納骨の取り扱いを行っております。これからも、法務を通してご門徒の皆様方が気軽に参詣出来るよう努力いたして参ります。今後共、宜しくお願い致します。

福井別院事務局長
一組 信行寺住職
波多野 俊香

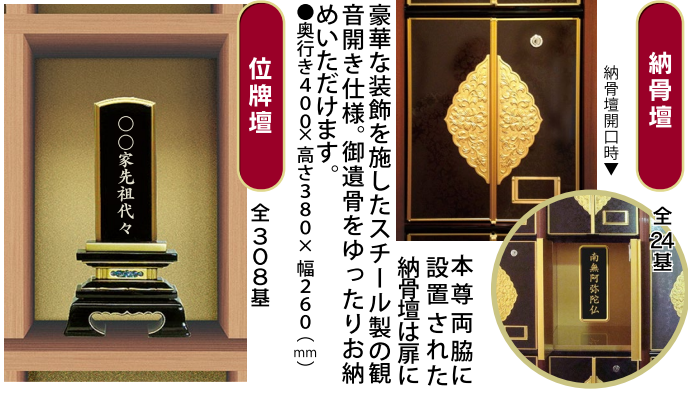
納骨は福井別院へ。

納骨に三重の本山まではちょっと遠いなあ...とお思いの方に福井別院でいつでも「納骨」と「お参り」が出来るようになりました。



福井別院納骨堂の御案内

納骨・位牌堂は正面に阿弥陀如来を安置し両脇に二十四基の納骨壇。更にその左右には三百八基の位牌壇が設置設置してあります。お納め頂いたお位牌が阿弥陀如来を無数の仏が囲むが如く堂内全体がお浄土を現すようになっております。ぜひ一度ご見学においで下さい。



納骨壇

全24基

位牌壇

全308基



位牌表面
●位牌裏面に
●四法名可納
●一法名彫料
は別途三千元を申受けます

お位牌を余裕を持って安置していただけます。ご遺骨は合葬納骨口より納骨いたします。お位牌には○○家先祖代々。ご希望により裏面に法名をお彫りします。
●奥行き117×高さ330×幅180(mm)

豪華な装飾を施したスチール製の観音開き仕様。御遺骨をゆつたりお納めいただけます。
●奥行き400×高さ380×幅260(mm)

本尊両脇に設置された納骨壇は扉に「無阿弥陀仏」の号と「俱会一処」の合葬納骨口より有縁の方々と一同に安置。恭敬させていただきます。

合葬納骨口
本尊阿弥陀如来像下の引戸内に「南無阿弥陀仏」

納骨位牌敬置永代供養
「納骨・位牌堂法会」
今年9月15日 厳修
納骨位牌堂ご加入のお檀家には事前にご連絡申し上げます。

納骨壇 五拾万円
位牌壇 四万円
一般納骨のみ 二万円
位牌安置のみ 二万五千元

※記載されている冥加金は変更する場合があります。予めご了承ください。

福井県内

末寺報恩講

平成二十七年 真宗高田派
月・寺院名・組別・住所・会期の順に掲載
お近くの高田末寺へもぜひ、お参りください。

6月	慈照寺 福井市尼ヶ谷 第4日曜日
8月	願生寺 福井市鮎川 29~30日
9月	勝鬘寺 福井市風尾 5~6日 浄善寺 福井市友兼 13日 鳳生寺 福井市鹿俣 第3日曜日 信行寺 三国町覚善 18日 稱名寺 三国町山王 27日 顯正寺 三国町黒目 28日 西方寺 福井市北湯 29日 29~30日
10月	西光寺 福井市牛ヶ原 1日 榮照寺 大野市庄林 2日 常樂寺 三国町高戸 3日 真樹寺 大野市二面 5日 安養寺 福井市北湯 7日 願生寺 福井市北湯 8日 10日
11月	本流院 三国町加戸 1日 大願寺 坂井町上兵庫 2日 勝光寺 福井市西天田 3日 正教寺 福井市北湯 3日 願教寺 福井市足羽 3日 仙福寺 福井市黒目 4日 寶幢寺 福井市南菅生 5日 寶光寺 福井市黒目 6日 珠光寺 福井市黒目 7日 寶林寺 福井市折立 9日 西生寺 福井市小幡 10日 勝林寺 福井市花堂南 12日 14日
12月	法久寺 福井市山岸 10日 勝光寺 三国町山岸 11日 圓光寺 福井市御幸 12日 稱名寺 福井市北湯 13日 聖照寺 越前町三崎 17日 光顯寺 福井市味見河内 18日 法圓寺 福井市小丹生 18日 法性寺 福井市北本町 21日 教林寺 三国町新保 21日 遠成寺 三国町南本町 24日 稱名寺 福井市折立 25日 26日

ご門徒の皆様へ

福井別院 「護持費」

納入のお願い

福井別院は、県下高田派寺院・檀信徒の皆様によって護持運営されており、福井別院へも懇意をお寄せいただきたく、納入をお願いいたしております。

福井別院護持費

五〇〇〇円
(檀家・年間)

「護持費」納入方法

一、地区お世話方に納入
(お世話方はお手継ぎお寺へ納入)
一、直接、お手継ぎお寺へ納入
お寺様に集まった「護持費」は一括して別院へ納入していただいております。これまで未納の檀信徒の皆様にもぜひ「護持費」納入をお願い申し上げます。

真宗高田派専修寺 福井別院



〒918-8015 福井県福井市花堂南2丁目10-35 電話:0776-35-2299/FAX:0776-35-2291
Mail:fukuitakadabetsuin@orange.plala.or.jp

福井別院 年間法要
1月:御正忌/3月:春季彼岸会/5月:宗祖聖人降誕会/7月:永代經
9月:納骨位牌堂法会・秋季彼岸会/11月:報恩講

大本山永平寺御用達
和蠟燭製造・薫香 卸
大黒屋本舗
〒918-8001 福井市つくも1丁目5の22
TEL:(0776)36-3747(代)
FAX:(0776)36-7087

法衣・寺院用仏具・念珠・稚児貸衣装
仏教用品総合製作
ヒサノ法衣仏具
〒910-0019 福井市春山2丁目8-26
TEL:0776-21-3515 FAX:0776-21-3559
E-mail:hisano@ruby.ocn.ne.jp

株式会社
サワザキ佛壇店
〒910-0373 福井県坂井市丸岡町高柳2-16
TEL:0776-66-6560
FAX:0776-67-1050